

同時資料配布先：

経済産業記者会

学研都市記者クラブ

2020年11月26日

公益財団法人地球環境産業技術研究機構
次世代型膜モジュール技術研究組合

革新的 CO₂ 分離回収技術シンポジウム ～ 地球温暖化防止に貢献する固体吸収材及び膜による分離回収技術の最新動向 ～ 開催について

公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）と次世代型膜モジュール技術研究組合（MGM 組合）は、広くご関係の皆様にご紹介するため、2021年2月2日に「革新的 CO₂ 分離回収技術シンポジウム」を共同開催致します。

固体吸収材および分離膜を利用する CO₂ 分離回収技術は、温暖化対策の重要な選択肢の一つである CCUS（Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage）における低コストな CO₂ の分離・回収技術として期待されています。

今回のシンポジウムでは、RITE の山地憲治副理事長による基調講演の後、招待講演として名古屋大学大学院工学研究科の則永教授、日揮ホールディングス株式会社サステナビリティ協創部の長谷川様を迎え、化学吸収法に関わる技術動向やゼオライトを用いた CO₂ 分離技術に関するトピックスについてご講演頂きます。

また、RITE および MGM 組合が国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）委託事業において研究開発している固体吸収材および CO₂ 分離膜技術の最近の進捗についてもご報告いたします。

CCUS や固体吸収材、膜分離技術にご関心をお持ちの皆様には、最新動向をお聞き頂ける絶好の機会ですので、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

※次世代型膜モジュール技術研究組合

（組合員：住友化学株式会社、公益財団法人地球環境産業技術研究機構）

1. 開催趣旨

パリ協定は、世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも 2°C 高い水準を十分に下回るものに抑えるとともに、1.5°C 高い水準までのものに制限するための努力を継続すること、このために、今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡（世界全体でのカーボンニュートラル）を達成することを目指すこと等を定めています。地球温暖化対策の重要な選択肢の一つとして、二酸化炭素回収・貯留（CCS：Carbon dioxide Capture and Storage）が挙げられます。

そのなかで、NEDO からの「CO₂ 分離回収技術の研究開発」に関する委託事業で、RITE は、現行の石炭火力発電所等の排ガスから高効率・低エネルギーで CO₂ を分離回収する固体吸収材の開発（先進的 二酸化炭素固体吸収材の石炭燃焼排ガス適用性研究）を、他方で、MGM 組合は、効率的な石炭ガス化発電として期待されている IGCC 等で発生する圧力を有するガスから、低コストで CO₂ を分離回収する分離膜の開発（二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発）を進めています。

本年度も前回同様、RITE による固体吸収材の開発動向と MGM 組合による膜の分離回収技術とを併せた形で開催させて頂き、それぞれの研究開発状況について報告致します。併せて、各分野から国内外の CCUS に関わる技術動向についてご講演頂き、広く最新の情報を知って頂くことを目的としています。

2. 開催概要

- 主 催： 公益財団法人地球環境産業技術研究機構、次世代型膜モジュール技術研究組合
共 催： 経済産業省、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
後 援： 日本 CCS 調査株式会社、Global CCS Institute、公益社団法人新化学技術推進協会
公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会
協 賛： 日本膜学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人高分子学会、
公益社団法人日本化学会
日 時： 2021 年 2 月 2 日（火）13 時 00 分～16 時 30 分（受付開始 12 時 30 分）
会 場： 東京大学 伊藤謝恩ホール（本郷キャンパス 赤門東隣り）定員 145 席
および WEB 配信
参加費： 無料

プログラム（敬称略）：

- ・基調講演 「CCUS 実用化への展望と課題」
公益財団法人地球環境産業技術研究機構 副理事長 山地 憲治
- ・招待講演①「化学吸収法による CO₂ 分離回収の新展開」
名古屋大学 大学院工学研究科 教授 則永 行庸
- ・招待講演②「CO₂-EOR および天然ガス事業における CO₂ 分離向け DDR 型ゼオライト膜プロセスの開発」
日揮 ホールディングス(株)サステナビリティ協創部
技術開発グループ チームリーダー 長谷川 裕晃
- ・活動報告①「二酸化炭素固体吸収材の実用化に向けた研究開発の進展」
公益財団法人地球環境産業技術研究機構 副主席研究員 余語 克則
- ・活動報告②「二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発の進捗について」
次世代型膜モジュール技術研究組合 専務理事 中尾 真一
(詳細は別紙をご参照ください。)

3. 参加登録

参加を希望される方は、下記 RITE ウェブサイトよりお申し込み下さい。
<http://www.rite.or.jp/news/events/>

4. プレス登録

取材を希望される報道関係者の方も、事前にお申し込み下さいますようお願い致します
(やむを得ず当日受付となる場合は、本人確認のため名刺をご持参下さい)。

お問合せ先

○シンポジウムの内容・参加登録に関するお問合せ先：

- ・公益財団法人地球環境産業技術研究機構 余語、馬場、菰野、大西
TEL：0774-75-2305 E-mail：mgmsympo@rite.or.jp

○本プレス発表に関するお問い合わせ先：

- ・公益財団法人地球環境産業技術研究機構
企画調査グループ 広報・産業連携チーム 川口、辰巳
TEL：0774-75-2301 E-mail：pub_rite@rite.or.jp

革新的CO₂分離回収技術シンポジウム

～地球温暖化防止に貢献する固体吸収材及び膜による分離回収技術の最新動向～

日時

2021 2/2^火 13:00-16:30
(受付開始 12:30)

参加費
無料

会場

東京大学 伊藤謝恩ホール (定員 145名) および WEB 配信

開催趣旨

パリ協定は、世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも 2℃高い水準を十分に下回るものに抑えるとともに、1.5℃高い水準までのものに制限するための努力を継続すること、このために、今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡（世界全体でのカーボンニュートラル）を達成することを目指すこと等を定めています。地球温暖化対策の重要な選択肢の一つとして、二酸化炭素回収・貯留（CCS：Carbon dioxide Capture and Storage）が挙げられます。

そのなかで、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）からの「CO₂分離回収技術の研究開発」に関する委託事業で、(公財)地球環境産業技術研究機構（RITE）は、現行の石炭火力発電所等の排ガスから高効率・低エネルギーでCO₂を分離回収する固体吸収材の開発（先進的二酸化炭素固体吸収材の石炭燃焼排ガス適用性研究）を、他方で、次世代型膜モジュール技術研究組合では、効率的な石炭ガス化発電として期待されているIGCC等で発生する圧力を有するガスから、低コストでCO₂を分離回収する分離膜の開発（二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発）を進めています。

本年度も前回同様、次世代型膜モジュール技術研究組合による膜の分離回収技術とRITEが同じNEDOからの委託事業で行っている固体吸収材の開発動向を併せた形で開催させて頂き、それぞれの研究開発状況についてご報告いたします。併せて、各分野から国内外のCCUSに関わる技術動向についてご講演頂き、広く最新の情報を知っていただくことを目的としています。

主催：(公財)地球環境産業技術研究機構と次世代型膜モジュール技術研究組合（*）の共同開催

共催：経済産業省、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構

後援：日本CCS調査(株)、Global CCS Institute、(公社)新化学技術推進協会
(公社)2025年日本国際博覧会協会

協賛：日本膜学会、(公社)化学工学会、(公社)高分子学会、(公社)日本化学会

(*)次世代型膜モジュール技術研究組合の組合員：住友化学㈱と(公財)地球環境産業技術研究機構

Molecular Gate
Membrane module
Technology Research
Association

RITE
Research Institute of Innovative
Technology for the Earth

プログラム

13:00	開会
13:00-13:05	主催者挨拶 (公財) 地球環境産業技術研究機構 理事長 茅 陽一
13:05-13:10	共催者挨拶 経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部 石炭課 課長 土屋 博史
13:10-13:15	共催者挨拶 (国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 環境部 部長 田中 秀明
13:15-13:50	基調講演 「CCUS 実用化への展望と課題」 (公財) 地球環境産業技術研究機構 副理事長 山地 憲治
13:50-14:25	招待講演① 「化学吸収法による CO ₂ 分離回収の新展開」 名古屋大学 大学院工学研究科 教授 則永 行庸
14:25-15:00	招待講演② 「CO ₂ -EOR および天然ガス事業における CO ₂ 分離向け DDR 型ゼオライト膜プロセスの開発」 日揮 ホールディングス(株)サステナビリティ協創部 技術開発グループ チームリーダー 長谷川 裕晃
15:00-15:15	休憩
15:15-15:50	活動報告① 「二酸化炭素固体吸収材の実用化に向けた研究開発の進展」 (公財) 地球環境産業技術研究機構 副主席研究員 余語 克則
15:50-16:25	活動報告② 「二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発の進捗について」 次世代型膜モジュール技術研究組合 専務理事 中尾 真一
16:25-16:30	閉会挨拶 次世代型膜モジュール技術研究組合 理事長 栗本 勲
16:30	閉会

*上記プログラム内容については、変更されることがあります。

アクセス

東京大学 伊藤謝恩ホール

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

TEL 03-5841-0779

- 地下鉄丸ノ内線「本郷三丁目」駅より徒歩 8 分
- 地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩 6 分
- 地下鉄千代田線「湯島」駅または「根津」駅より徒歩 15 分



参加申込方法

所属、住所、氏名、電話番号、メールアドレスを下記 URL 内の申込専用フォームにご記入下さい。

<http://www.rite.or.jp/news/events/2020/11/20210202.html>

申込期限 会場参加者 2021年 1月 13日 (水)

WEB 聴講者 2021年 1月 27日 (水)

お問い合わせ先

(公財) 地球環境産業技術研究機構 化学研究グループ TEL:0774-75-2305
次世代型膜モジュール技術研究組合 総務部 TEL:0774-72-0230
E-mail : mgmsympo@rite.or.jp